

坪水さん T i k T o k が若い女性にとつてはライトで、話題になる可能性を秘めていると思います。

上船さん I n s t a g r a m と、T i k T o k が若い人の中では主流で、特にT i k T o k が情報としては目に入りやすいと思います。

松谷さん 観光の面で言うと、「特別な体験ができる」観光地を求めている人が多いです。東京の観光案内所と

鹿屋の魅力が伝わる 情報発信について

市長 鹿屋のものがいいなと思いますね。

市長 鹿屋の魅力が皆さんたちに伝わるには、どのように情報発信すれば良いでしょうか。



市長 確かに、これ！という定番のお土産や観光ルートをつくるのが大事ですね。

対 談 市長と本気で語ろう会

東京で働く女性たちが考える「鹿屋市」

6月4日、東京都で「市長と本気で語ろう会」を開催。本市出身で都市部に暮らしている女性5人と対談を行い、ふるさとに対する思いや意見を含め「若者と女性にも選ばれるまち」になる方法について、一緒に考えました。



転出のきっかけ

市長 皆さんお集まりいただき、ありがとうございます。本市では人口減少対策として子育て支援や医療費無償化、東京の人が地方でも働けるような環境整備などに取り組んでいるところですが、今回は「若者と女性にも選ばれるまち」になるためにはどうしたらよいか、というテーマで、皆さんがふるさとに対してどういう思いを抱いているのかを含め、忌憚のない意見を伺いたいと思います。まずは転出したきっかけから教えてください。

篠原さん 名古屋の大学に進学しました。インフラ関係の仕事をしたいと思って、大きい会社に入りたかったのがきっかけです。

宮園さん 進学先が東京でした。都会自体にあこがれがあったわけではなくて、「自分の可能性を少しでも広げるため」という側面が大きかったと思います。Uターンがしたいくらい鹿屋が好きなんですけど、ボイストレーナーをしており、レッスンをを行う面でも東京を選んでいきます。

坪水さん 東京に親戚が多かったこともあって、東京の大学に進学しました。自分のキャリアを考えて、東京の大企業に就くことを目標にしていました。

上船さん 私は、さまざまな価値観

かに情報を届けるのが効果があると思います。

篠原さん 他にもL I N E等のSNSを活用して話題になるような情報発信が大事だと思います。

宮園さん SNSと情報誌だと思います。Instagramの*リールやストーリー等を活用した広告が目につけるきっかけになると思います。

若者と女性に選ばれる まちになるには

上船さん かのやばら園や、観光地への導線をもっとピンポイントに強化するのはどうでしょうか。市外から来た人に良い印象を与えることが大事だと思います。



松谷さん 1つは、鹿屋は人の集まる拠点がスポットで点在していて、何か事業をするにしても継続性の面でなかなか難しいという点。もう1つは、地元で「価値観の合う男女の出会い」を作る場があれば、効果があるのか

の人と出会って成長したいという思いや、給与などの経済的な面から、東京への進学を選びました。

松谷さん 福岡の大学と企業に進学・就職して、その会社の異動で東京に



来ました。自分を見つめ直したときに鹿児島の良さに気付いて、今は鹿児島と都市部の二拠点生活も視野に入れつつ、自分の可能性を広げる生き方を模索している段階です。

東京で感じる 鹿屋のこと

市長 キャリアを積んで目標とする自分の夢を実現したいと思っている方が多いですね。皆さんは東京で生活されて感じる鹿屋の魅力、もしくは課題についてはどうお考えですか？

宮園さん 鹿屋では、子育てと自分の時間の両立は難しいと考える人が多いように感じますが、東京では、子育てしながらも趣味や副業の時間

などと思います。

篠原さん 子育て世代にとって鹿屋はすごく魅力的で、東京は経済面、住居面で厳しさを感じます。あそV I V A！は大好きで、帰省の度に訪れています。リモートワークも可能なので二拠点生活も良いかなと思うこともあります。



宮園さん 都市部に住んでいてUターンを選んではない人は、それなりの理由があると思っています。そういう人よりは、都会で生まれ育った人をターゲットにして、「都会らしいもの」を作るのではなく、「鹿屋にしかないもの」を重視した方が良い結果に繋がると思います。

坪水さん まちとして「何を一番推したいのか」が明確になると、私たち周りにPRしやすいです。また、Y O S H I R O T T E N さんなど、鹿屋出身のアーティストからアートやクリエイティブな、新たな流れが生まれると若い世代が帰ってくるきっかけになると思います。

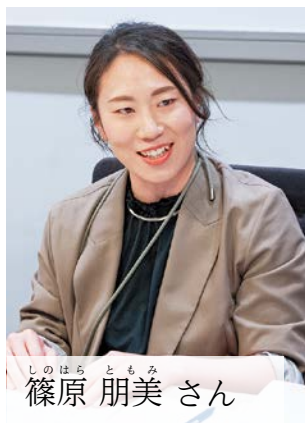
を積極的に作って積極的に活動している方が多い印象です。

坪水さん 東京は「何かしたい」時に何でもあつて、簡単に公共交通機関でアクセスできます。鹿屋は車がないと厳しい面があります。

市長 市としても花岡・輝北・申良・吾平地域でデマンド交通に取り組んでいますが、確かに公共交通機関に関しては課題が残っていると思います。

上船さん 東京は魅力的な遊ぶ場所などが多く、若い人は毎日いろんな経験をしたと思うので、その点では、鹿屋だと難しいかなと。

松谷さん 自分のスキルを磨くとか、人脈を作るとか、「選択できる」面で東京は地方より有利です。



篠原さん 鹿屋が好きで、帰るたびに元気をもらえるんですけど、友達が鹿屋に来る時に「定番の観光ルート」みたいなのがないので困りました。あと案内がしやすいと思います。



▲東京都渋谷区渋谷ヒカリエで、3人の地方創生支援官（P9参照）も交えながら議論を行った。

市長 皆さん、貴重なご意見ありがとうございます。夢に向かって都会で活躍する皆さんの姿を誇らしく感じるとともに、鹿屋に対する愛着を変わらず持っていたいていいることを知り、改めて帰りたいと思えるまちづくりの必要性を感じました。お話を聞いて特に思ったのは「若者と女性にも選ばれるまち」を目指すうえで、キャリアアップや子育てが両立できる環境が大切で、東京と鹿屋を行き来しながら生活できる二拠点生活を促進する仕組みが重要だと思いました。また、魅力的な環境づくりに加えて、鹿屋の魅力をどのように発信していくのかという課題も見えてきました。皆さんからいただいた「鹿屋のここが良い」「鹿屋にはこれがない」といったご意見を今後の政策に生かしていきたいと思っています。

本日は本当にありがとうございます。